

## 図表で見る医療 2013 年版

プレスリリース：日本

「日本は医療制度の効率性を高める必要がある」と OECD が発表しました。

日本の保健医療における成果は高いですが、医療費は近年急速に増加しています。日本はコストを抑えながら質の高い医療サービスの提供を続けるために、医療制度の効率性を高めることに焦点を当てる必要があると最新の OECD 報告書は述べています。

「OECD 図表で見る医療 2013 年版」では、日本の 2011 年の平均寿命は男性が 79 歳、女性が 86 歳で、OECD 平均の 77 歳と 83 歳を上回り、引き続き最も長寿の国のひとつだと述べています。

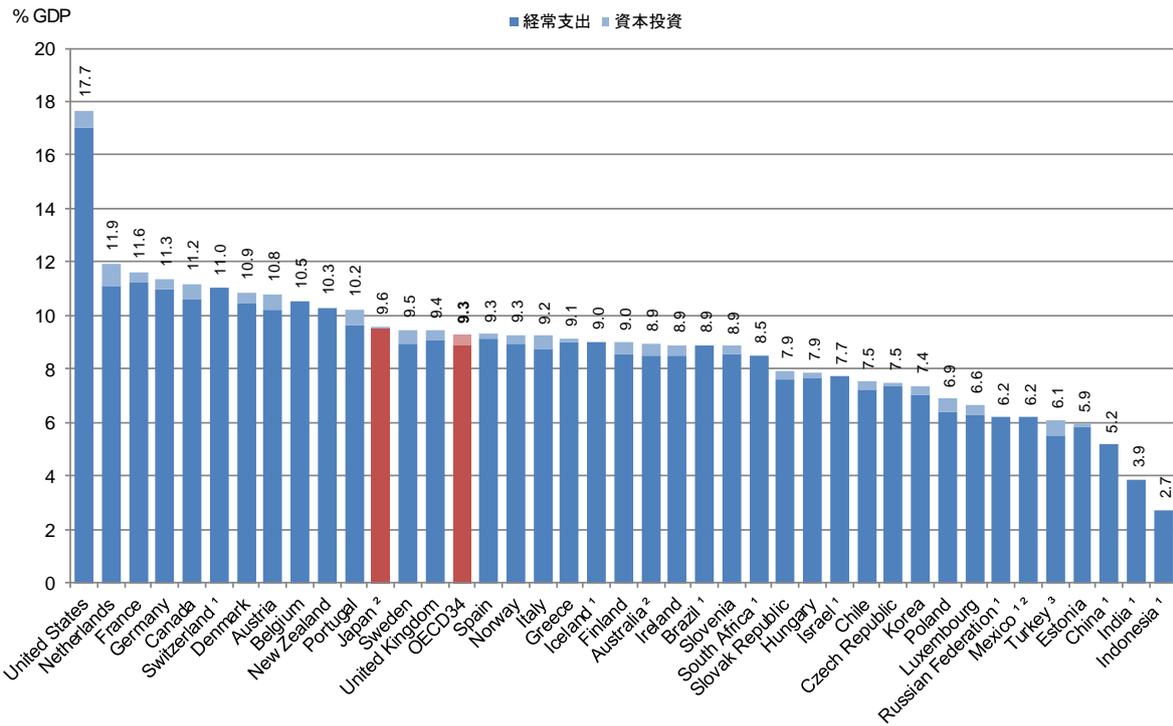
日本では質の高い医療へのアクセスが可能です。日本での医療への公平なアクセスは、比較的高い公費割合（総保健医療費の 82%、OECD 平均は 72%）と比較的均衡の取れた医師の地域分布により促進されています。その上、日本の医療の質はがんや脳卒中の治療など多くの分野で高くなっています。

「OECD 図表で見る医療 2013 年版」によると、日本では総保健医療支出の増加が 2009 年と 2010 年に年率 5%近くで、他の多くの OECD 諸国に比べて急速に増加しました。2010 年には日本の総保健医療支出の対 GDP 比 (9.6%) は、OECD 平均 (9.3%) を初めて上回りました。OECD の報告書は、日本で医療支出に対する費用対効果を上げることのできる分野がいくつかあること示唆しています。

日本の平均在院日数は 2000 年以降大幅に減少しましたが、OECD 諸国の中ではいまだに最長で、OECD 平均が 8 日のところ日本は 18 日です。計画的な病床数の減少と病院外の地域での医療・介護サービスの拡充により、平均在院日数はさらに減少するでしょう。

また、日本はジェネリック医薬品の更なる利用促進により、医療支出に対する費用対効果が上がるでしょう。「図表で見る医療 2013 年版」によると、日本の一人当たり医薬品支出は OECD 諸国で米国、カナダ、ギリシャについて 4 番目の高さです。日本では過去 5 年でジェネリック医薬品の市場シェアは増えてきましたが、ドイツや英国では総消費量の 75%を占めるのに対し、2011 年の段階でいまだ 25%未満です。ジェネリック医薬品の処方と消費を促進する一層の取組は、医療の成果に影響を与えずに支出を削減することになるでしょう。

### 総保健医療支出の対GDP比, 2011年 (またはこの至近年)



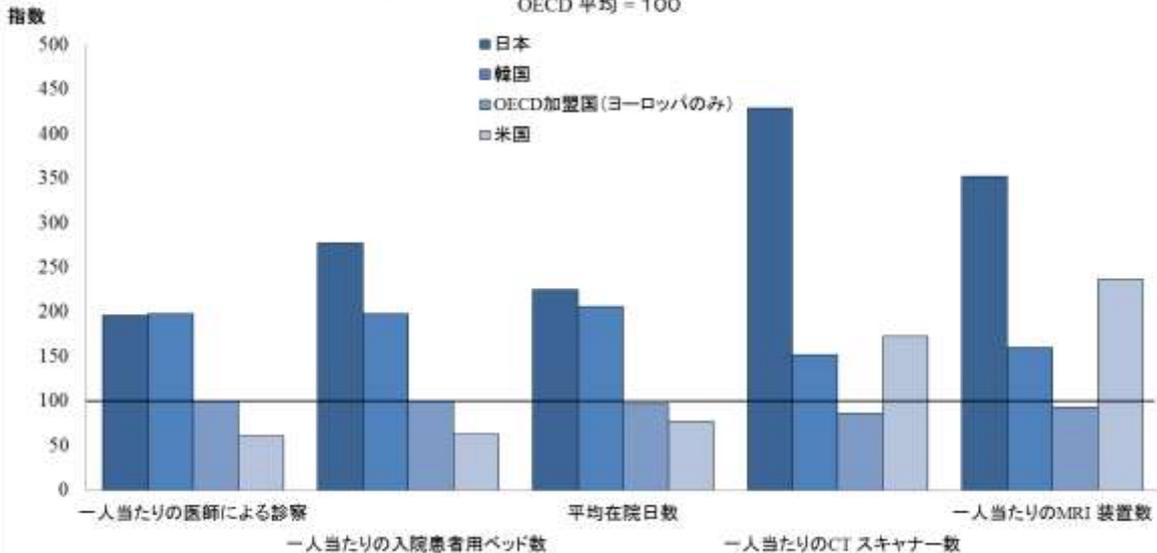
1. 総支出

2. 2010年のデータ 3. 2008年のデータ

出典: OECD Health Statistics 2013, <http://dx.doi.org/10.1787/health-data-en>; WHO Global Health Expenditure Database.

### 医療サービスの国際比較, 2011年 (またはこの至近年)

OECD 平均 = 100



出典: OECD 図表で見る医療2013年版

これらのデータはパリに本部がある OECD が出版した「図表で見る医療」の最新版に記載されています。この報告書は、健康状態、医療へのアクセス、医療分野での労働力やサービス、医療の質、保健医療支出、介護など様々な国際比較のデータをまとめています。日本の保健医療支出のデータは2010年のものです。

報告書のコピーまたは内容に関するお問い合わせは、川口尚子（電話：03-5332-0026、[naoko.kawaguchi@oecd.org](mailto:naoko.kawaguchi@oecd.org)）または担当者の Gaetan Lafortune（電話：+33 1 45 24 92 67、[gaetan.lafortune@oecd.org](mailto:gaetan.lafortune@oecd.org)）までお願いいたします。

報告書に関する追加情報は [www.oecd.org/health/healthataglance](http://www.oecd.org/health/healthataglance) で、ご覧ください。